

## 目 次

|  |    |
|--|----|
| 【解説】地域教育連携 報告シートについて   | 3  |
| <b>報告シート</b>   |    |
| ・富良野の小学校におけるビオトープの活用   | 4  |
| ・講演「総合交通体系について考える」   | 5  |
| ・砂川市市民活動等入門講座 第1回<br>「市民活動・地域活動への第一歩 ～役立つ基礎知識～」                  | 6  |
| ・英語教師の会 MATE (The Meeting of Asahikawa Teachers of English)      | 7  |
| ・利尻富士町「平成25年度 夏休みチャレンジ教室」  | 8  |
| ・平成25年度上川管内高等学校養護教諭研究協議会 第2回研究協議会<br>「日常的に遭遇するけが・疾病のフィジカルアセスメント」 | 9  |
| ・平成25年度保育士専門研修(第2回)子どもの生活習慣について<br>(北海道社会福祉協議会 社会福祉研修所)          | 10 |
| ・音楽分野の学生による「音楽鑑賞交流会」   | 11 |
| ・全校音楽集会への参加「男声コーラスの魅力を伝えよう」                                      | 12 |
| ・音楽分野の学生による オペレッタ「金の子犬、銀の子犬」公演                                   | 13 |
| ・食育教室「お米と健康のタメになる話」田んぼアート田植え作業の食育講演                              | 14 |
| ・あさひかわ食楽探検隊  | 15 |
| ・「食育と健康」   | 16 |
| ・食育教室「旭川産の野菜を使ったお菓子を作ろう！」  | 17 |
| ・上川管内技術・家庭科研究会 スキルアップ研修会<br>「いざは、普段なり ―防災・減災の視点から―」              | 18 |
| ・はらぺこクッキング夏「～フレッシュ野菜できらめきランチ!～」<br>はらぺこクッキング冬「～あったかラーメンづくり隊～」    | 19 |
| ・緑が丘中学校・家庭科部支援サポート<br>「Let's お魚クッキング! あのジブリ飯を作ってみよう!」            | 20 |
| ・文学資料館フィールドワーク   | 21 |
| ・レゴ・マインドストームのレンタルシステムによる<br>自律型ロボット学習に関する実践研究                    | 22 |
| ・第9回上川管内中学生創造ものづくり教育フェア  | 23 |
| ・第3回U-16旭川プログラミングコンテスト   | 24 |
| ・旭川市地域連携アートプロジェクト<br>造形まつり「工作玉手箱! いろんな形 みつけちゃおう」                 | 25 |

|  |    |
|--|----|
| ・旭川市地域連携アートプロジェクト                      |    |
| 中原悌二郎賞関連ワークショップ 「コロンブスの卵」              | 26 |
| ・旭川地域連携アートプロジェクト 「岸田劉生」展 鑑賞プログラム       | 27 |
| ・旭川市地域連携アートプロジェクト                      |    |
| 旭川市立彫刻美術館巡回展出前授業プログラム                  | 28 |
| ・学習支援ボランティア団体「ゆずりは」                    | 29 |
| ・通学合宿事業「はまとんべつ寺子屋塾」                    | 31 |
| ・北海道教育委員会「ボランティアバンク事業」にかかる             |    |
| 道北地域の学習サポート                            | 32 |
| ・枝幸町大学生フレンドシップ事業                       | 33 |
| ・中頓別町放課後子ども教室（冬休み）「冬休みチャレンジ教室 in 2014」 | 34 |

## 付属資料

|                              |    |
|------------------------------|----|
| ・学生ボランティア事業（概要）              | 36 |
| ・平成 25 年度 授業公開講座一覧           | 39 |
| ・学校訪問受入／出前授業（25.4.1～26.3.31） | 41 |
| ・平成 25 年度 審議会等派遣一覧           | 42 |
| ・平成 25 年度 講演会講師・助言者等派遣一覧     | 45 |

## 【解説】地域教育連携 報告シートについて

このシートは、北海道教育大学旭川校の教員が主体として、または橋渡し役として行っている地域教育連携活動をまとめたものです。内容は、自治体や教育関係団体と本学教員が共同で行っている事業、本学教員による研修会・講演会、学生の派遣事業など多岐にわたっております。

なお、本報告は教員の自主申告に基づいており、必ずしも現在行われている地域教育連携事業のすべてを網羅したものではありません。また、内容が一部重複するところもあります。

### シートの見方

各項目には以下が記載されています。

テーマ：地域連携事業、研修会の名称

日時（期間）：事業が行われた日時もしくは期間

場所：事業が行われた場所

参加人数：事業に参加した人数の総計

担当者：事業にかかわった本学教員及び関係者

概要：事業のおおよその内容

成果：事業がもたらした成果

## 地域教育連携 報告シート

|                      |  |
|----------------------|--|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | 富良野の小学校におけるビオトープの活用  |
| <b>日時 (期間)</b>       | 平成 24 年 9 月 20, 24, 27 日, 10 月 16, 17 日  |
| <b>場 所</b>           | 富良野市立扇山小学校, 富良野市立富良野小学校  |
| <b>参加人数</b>          | のべ 11 名 (大学院生)   |
| <b>担当者</b>           | 安藤 秀俊  |
| <b>概 要</b>           | <p>本学の地域貢献推進経費の支援を得て、「理科」や「総合的な学習の時間」の中で、ビオトープを利用した自然体験活動を実践した。</p> <p>2つの小学校で共通の実践活動として、「水の中の小さな生き物の観察」で学校ビオトープ内の池の水を採集し、顕微鏡を用いた観察を行った。この活動では、直接目で見ることの少ない淡水プランクトンに焦点を当てることと水の中の小さな生き物の自然界での役割を説明することで生き物の大切さを実感させた。富良野小学校で行った実践活動では、「冬芽・葉痕の観察」を行い、ビオトープに生育する 6 種類の植物の冬芽・葉痕に焦点を当て、冬芽の形、色を基に植物の同定を行った。この活動では、冬芽・葉痕といった普段気につけない植物の部分に注目することで植物を同定することができることを体験すること、植物の細かい部分まで観察することの楽しさを体験することを目的とした。</p> <p>扇山小学校で行った実践活動では、「樹拓作り」を行い、ビオトープに生育する 6 種類の樹木の葉や幹などの特徴を調査し、班ごとにまとめ、発表する活動を行った。樹拓作りでは樹皮の模様を習字用半紙に写し取り、樹木 1 本 1 本は異なる模様をしていることを 6 種類の樹拓を並べ比較、観察させた。</p> |
| <b>成 果</b>           | <p>ビオトープの動植物に対して、それまで児童が持っていた学校ビオトープへの見方に加え、新しい観察の視点や気づきを持つことができる効果が得られた。それに伴い、学校ビオトープへの興味・関心や愛着の気持ちを持つ児童が多く見られ、身近な自然と言えるビオトープを大切にしようという気持ちを持たせることができた。</p>  |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |  |
|----------------------|--|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | 講演「総合交通体系について考える」  |
| <b>日時 (期間)</b>       | 2013年9月6日  |
| <b>場 所</b>           | 市民ネットワーク北海道事務所   |
| <b>参加人数</b>          | 10名  |
| <b>担当者</b>           | 角 一典   |
| <b>概 要</b>           | <p>札幌市を拠点として活動する「市民ネットワーク北海道」は、女性・主婦の立場からの政治革新を目指すローカルパーティである。市民ネットでは、不定期に個別テーマを設定した学習会を開催しているが、丘珠空港問題に関わり、交通体系に関する講演の依頼を受け、主に空港整備に関する観点から総合交通体系を考えるというテーマで講演を行ったものである。</p> <p>なお、当日の概要や様子は以下にも記載されている。<br/> <a href="http://snet21.jp/sato/r21_005.htm">http://snet21.jp/sato/r21_005.htm</a></p> |
| <b>成 果</b>           | <p>空港という題材は専門ではなかったが、新幹線に関する研究を応用して講演を行うことで、多少なりとも研究者としての専門的知識を市民に還元することができたかと自負している。高度に狭い領域を研究することと市民への研究成果の還元とはなかなか折り合いがつかない所ではあるが、このような機会が与えられたことに、一研究者として率直に感謝をしたい。</p>  |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |  |
|----------------------|--|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | 砂川市市民活動等入門講座 第1回<br>「市民活動・地域活動への第一歩 ～役立つ基礎知識～」   |
| <b>日時 (期間)</b>       | 2013年9月12日   |
| <b>場 所</b>           | 砂川市地域交流センターゆう  |
| <b>参加人数</b>          | 40名  |
| <b>担当者</b>           | 角 一典   |
| <b>概 要</b>           | <p>本講座は、砂川市が主催で、「協働のまちづくりに欠かせないパートナーである市民活動団体等の活動を担っていく人材の育成と、将来的に活動を支えていく人材を確保することを目的に」、全3回の連続講座として開催され、第1回を担当した。</p> <p>2時間の講座は、前半に「地元学のすすめ」と題した講演を行い、それを受けて、後半に「砂川市の良いところ悪いところ」と題し、付箋を使ったグループワークを行った。入門講座ということで、付箋を使った手法に関する知識が共有されていないことを想定し、講演の最後に簡単なレクチャーも挿入した。</p> <p>後半は6グループに分かれて、各自が砂川市でよいと思うこと、悪いと思うことを付箋に記入し、付箋を整理し、模造紙に書き込みを加えながらグループの意見を集約していった。最後に、模造紙をベースとした各グループの成果発表を行った。</p> <div style="text-align: right;"> <p><b>砂川について考えてみよう！</b></p> <p>『砂川のいいところ・良くないところ』について意見を出し合ってみましょう</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①各自付箋にキーワード・キーセンテンス記入 (5分)</li> <li>②順番に付箋を模造紙に張り付ける (25分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・付箋を貼る際には簡潔に説明を加えてください</li> <li>・一枚貼ったら次の人に交代してください</li> <li>・今日は、左側に「いいところ」、右側に「良くないところ」を貼り付けてください</li> </ul> </li> <li>③付箋の整理をしよう (10分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・似たもの同士を集めましょう</li> <li>・できれば要素を結んで、ついでに解決策も考えてみよう</li> </ul> </li> <li>④各グループの成果発表 (各グループ1分半) (10分)</li> </ol> </div> |
| <b>成 果</b>           | <p>後日、担当者から以下のようなメールをいただいている。</p> <p>「このような講座は、私どもにとって初めての試みでしたので、開催にあたり多くの不安がありましたが、先生のおかげで無事に第1回目の講座を終了することができました。参加者の反応も大変良く、このような講座を今後も続けてほしいといったご意見が多く寄せられておりますので、ご報告いたします」。</p>  |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |  |
|----------------------|--|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | 英語教師の会 MATE<br>(The Meeting of Asahikawa Teachers of English)  |
| <b>日時 (期間)</b>       | (第1回) 平成25年5月25日<br>(第2回) 平成25年6月29日   |
| <b>場 所</b>           | 教育ネットワーク HI・RO・BA<br>(旭川市1条8丁目 Feeeal 旭川7階)  |
| <b>参加人数</b>          | のべ41名 (第1回25名, 第2回16名)   |
| <b>担当者</b>           | 笠原 究   |
| <b>概 要</b>           | <p>平成24年度より開催している、英語教育について英語で語り合う会合である。市内の中高英語教師や英語教育に関心のある方が毎回10~20名程度参加してくださっている。</p> <p>今年度の第一回目では、まず本学の石塚教授が香港の英語教育についての視察報告を行った。アジアの中でも先進的な取り組みが行われている香港の取り組みは、日本にも大変参考になるものであった。次に笠原が語彙習得に関する研究成果を発表した。未知語を覚えるには、既知語を付けて2語のコロケーションにして覚えると、記憶の取り出しと定着に効果的であるという内容である。</p> <p>2回目は、まず本学の大学院生で現職の中学校英語教師である坂本氏が、自らのライティングの取り組みの工夫について発表した。広く応用出来るアイデアが満載の内容であった。次にインドネシアから国費派遣により本学で学んでいる高校英語教師の Phoe Prehantoro 氏が、インドネシアの英語教育について話をしてくれた。同じEFL環境にある国の英語教育事情は、日本の英語教育にも多くの示唆を含む内容であった。</p> |
| <b>成 果</b>           | 市内の中高英語教員をはじめ、小学校での外国語活動担当教員や英語塾経営者などの参加をいただいた。内容についてはおおむね好評であった。年度後半に開催できなかったのは、担当者の学内業務が増え、企画立案や連絡調整ができなかったためである。今後は協力者を募って業務を分担するなどの工夫が必要であろう。  |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |  |
|----------------------|--|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | 利尻富士町<br>「平成25年度 夏休みチャレンジ教室」   |
| <b>日時 (期間)</b>       | 平成25年8月5日 (月) ～ 8月9日 (金) 5日間   |
| <b>場 所</b>           | 利尻富士町「鴛泊小学校」   |
| <b>参加人数</b>          | <p>小学生 <u>1年25名</u> <u>2年11名</u> <u>3年18名</u> <u>4年12名</u> <u>5年14名</u><br/><u>6年 2名</u></p> <p>中学生 <u>1年 5名</u> <u>2年 6名</u> <u>3年 5名</u></p> <p style="text-align: right;">のべ参加者数 <u>490名</u></p> <p>(上記参加者98名×5日間)</p>  |
| <b>担当者</b>           | 三 浦 裕  |
| <b>概 要</b>           | <p>5年連続開催となるこの事業は、長期休業時を利用し、「短期集中講座を実施することにより、将来教員をめざす学生とのふれあい、自然とのふれあいを持ち、学ぶ意欲のある子どもたちに対して、安全・安心な居場所を設け、学習機会や様々な体験を提供する」ことをねらいとした事業である。</p> <p>利尻富士町からの企画・運営支援要請や学生派遣の要請に応えるべく調整を重ね、7名の学生派遣を決定した。</p> <p>参加児童・生徒を1年生～6年生までの5クラス、中学生の1クラスに編成し、各教室で本校学生らがクラス担任として5日間の日程で学習の指導を行った。</p> <p><u>21年度参加児童生徒 58名 派遣者 学生4名</u></p> <p><u>22年度参加児童生徒 74名 派遣者 学生5名 教員2名</u></p> <p><u>23年度参加児童生徒 76名 派遣者 学生7名</u></p> <p><u>24年度参加児童生徒 81名 派遣者 学生6名</u></p> |
| <b>成 果</b>           | <p>社会教育主事や教育活動推進員らが副担任となっており、サポート体制も充実し、学生個々の独創性も尊重され、今後の実践に役立つ事業である。毎年、学生を心待ちに参加してくれる児童もおり、地域に根付いた取り組みであることから、今後も継続してほしい事業である。</p> <p>また、この活動が高く評価され、平成25年度優れた「地域による学校支援活動」で利尻富士町が文部科学大臣表彰を受けた。</p>   |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |   |
|----------------------|---|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | 平成25年度上川管内高等学校養護教諭研究協議会<br>第2回研究協議会<br>「日常的に遭遇するけが・疾病のフィジカルアセスメント」  |
| <b>日時 (期間)</b>       | 平成25年9月12日  |
| <b>場 所</b>           | 北海道下川商業高等学校   |
| <b>参加人数</b>          | 8名  |
| <b>担当者</b>           | 芝木美沙子   |
| <b>概 要</b>           | <p>上川管内高等学校養護教諭研究協議会から上記テーマでの講演の依頼を受けたものである。</p> <p>昨年は、フィジカルアセスメントの基本的な事と、感覚器である目と耳のフィジカルアセスメントを行ったが、今年度は、日常的に遭遇するけが・疾病という事で、骨折やねんざ等の時にも使える運動系と、保健室で遭遇する事が多い、頭痛・腹痛で必要となる神経系と消化器系のフィジカルアセスメントについての実習を行った。</p> |
| <b>成 果</b>           | 講演後の質疑応答と参加者の交流で、昨年度と同様に、簡単にできるものがある事がわかったという感想があった。また、今後の執務に、フィジカルアセスメントを取り入れようと思うという感想もあり、効果があったと思われる。  |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |  |
|----------------------|--|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | 平成25年度保育士専門研修（第2回）<br>子どもの生活習慣について<br>(北海道社会福祉協議会 社会福祉研修所)   |
| <b>日時 (期間)</b>       | 平成25年9月18日   |
| <b>場 所</b>           | 旭川トーヨーホテル  |
| <b>参加人数</b>          | 70名  |
| <b>担当者</b>           | 芝木美沙子  |
| <b>概 要</b>           | <p>保育の専門職として、自己の保育観を見つめ直すとともに保育実践にあたって、より専門的な知識・技術等を習得する事を目的として行われている研修の一部である。現職経験年数が2年以上の保育所保育士を対象として行われた研修で、「子どもの生活習慣について」の講義を行ったものである。</p> <p>子どもの生活習慣の実態とその予防などについて、旭川ウェルビーイング・コンソーシアムと旭川市が連携して行った「こどもの生活習慣に関する調査」の結果も取り入れながら、現在の子どもの実態とその問題点、対策等について、講義形式で行ったものである。</p> <p>特に「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さについて、ホルモンの働きや体温の変化等科学的根拠をもとに説明した。</p> |
| <b>成 果</b>           | <p>研修後のアンケートでは、「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さを改めて理解した。自分も含め、生活習慣を見直すきっかけになった。等の感想があった。一方、保育所だけの取り組みでは難しい。保護者に理解してもらい、改善へのアプローチをする難しさ等を訴える感想もあったが、一定の効果はあったと思われる。</p>  |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |   |
|----------------------|---|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | 音楽分野の学生による<br>「音楽鑑賞交流会」   |
| <b>日時 (期間)</b>       | 平成 25 年 9 月 19 日  |
| <b>場 所</b>           | 旭川市立近文第二小学校 体育館   |
| <b>参加人数</b>          | 出演者：11 人（音楽分野大学 2 年生）<br>鑑賞者：約 30 人（全校生徒）   |
| <b>担当者</b>           | 石田 久大<br>杉江 光   |
| <b>概 要</b>           | <p>旭川市立近文第二小学校での音楽鑑賞交流会。</p> <p>●内容<br/>演劇を交えたストーリー仕立ての音楽鑑賞会を大学生が企画し、子どもたちの前で「吹奏楽」「リコーダー合奏」「鍵盤ハーモニカ合奏」「トーンチャイム」「混声合唱」の演奏を行った。最後に「100%勇氣」を小学生と共に演奏し交流を深めた。</p>   |
| <b>成 果</b>           | <p>子どもたちが、普段目にする事のない各楽器の特性、音色、奏法などを学び、生の演奏でその音色を味わうことにより、様々な楽器に対する興味関心を引き出すことができたと考える。</p> <p>全校生徒の前で演技をしながら演奏することにより、大学生は技術的にも精神的にも大きく成長し、パフォーマンス能力が向上したと感じる。</p> <p>子どもを飽きさせないストーリー、台詞回し、演奏プログラムを大学生が考案し、鑑賞教材開発を行うことで、鑑賞教育に対する大学生の意識が高まった。</p> <p>地域の小学校における音楽鑑賞教育に貢献できたと考える。</p> |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |  |
|----------------------|--|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | <p>全校音楽集会への参加<br/>「男声コーラスの魅力を伝えよう」</p>   |
| <b>日時 (期間)</b>       | <p>平成 25 年 9 月 2 5 日 リハーサル<br/>平成 25 年 9 月 2 6 日 コンサート本番</p>   |
| <b>場 所</b>           | 旭川市立向陵小学校 体育館  |
| <b>参加人数</b>          | <p>出演者：5 人 (音楽分野 2～4 年生 男性)<br/>鑑賞者：約 4 0 0 人 (全校生徒)</p>   |
| <b>担当者</b>           | 杉江 光   |
| <b>概 要</b>           | <p>向陵小学校でおこなわれる全校音楽集会で男声合唱の演奏依頼があり、「筑波山麓男声合唱団」「こいのぼり」「あわて床や」などの男声合唱を披露した。</p>  |
| <b>成 果</b>           | <p>子どもたちが大人の声の男声合唱を生で聴く機会は少ない。子どもたちが、男声の4声体（トップテナー、セカンドテナー、バリトン、バス）による合唱をそれぞれのパートの音色や音高、役割などの解説を交えながら鑑賞できたことは、とても興味深い経験であったようだ。大変熱心に、また、とても楽しそうに演奏に聴き入っていた。子どもたちから「すごく感動した」「蛙の声がおもしろかった」「すごく低い声の人がいて驚いた」などの感想文をもらい、地域の小学校における音楽鑑賞教育に大学生が貢献できた活動であったと考える。</p> |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |   |
|----------------------|---|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | 音楽分野の学生による<br>オペレッタ「金の子犬、銀の子犬」公演  |
| <b>日時 (期間)</b>       | 平成 26 年 2 月 20 日 リハーサル<br>平成 26 年 2 月 21 日 本番   |
| <b>場 所</b>           | 旭川市立近文第二小学校 体育館   |
| <b>参加人数</b>          | 出演者及びスタッフ：33人（音楽分野学生1～3年生）<br>鑑賞者：約40人（小学生、保護者）   |
| <b>担当者</b>           | 石田 久大（演出）<br>杉江 光（音楽指導、音響）  |
| <b>概 要</b>           | <p>子どもたちへの芸術鑑賞会として、オペレッタ「金の子犬、銀の子犬」（作曲：二橋潤一、台本：石田久大）の公演を行った。</p> <p>あらすじ：優しく気のいいペナンペという青年は、魚が捕れなくて困っているカラスに大きな魚をあげる。すると、お礼にカラスの国に招待され、ごちそうになったうえに、銀の子犬とお宝の箱をもらって帰る。それを聞きつけた欲張りもののペナンペは、「自分もお宝が欲しいものだ」と、カラスを見つけるとむりやりカラスに小さな魚を渡し、強引にカラスの国へ行って金の子犬とお宝をもらってくる。家に帰る途中、待ちきれなくてお宝の箱を開けると箱から犬のうんこやマムシなどが出てきて大慌て。助けを求めるペナンペを村の人が日ごろの行いの悪さのせいでこんな目に遭うのだとお仕置きし、ペナンペは、「これからは優しい気持ちで皆と暮らしていくよ。」と改心する。</p> <p>アイヌ音楽の伝統や美学を盛り込み、古くから伝わる「鶴の舞」や「踊り唄」などの唄や踊りも加えて、子どもたちの興味、関心を引く楽しい作品となっている。「鶴の舞」や「踊り唄」は、川村カネト・アイヌ記念館（旭川市）の川村久恵氏の指導を受け、より正確にアイヌ文化を伝えるように配慮している。</p> |
| <b>成 果</b>           | <p>大学生が「教育現場で鑑賞教育に貢献する」事は、簡単なことではない。特に音楽劇という総合芸術において、子どもたちが飽きることなく舞台に見入って“おもしろかった！”と言ってもらうには、「歌唱力、演技力、台詞回し、音楽性、演出、舞台美術」などが鑑賞に値する一定のレベルにならなければならない。</p> <p>大きな責任感をもってこの公演に取り組み、やり遂げることにより、学生は技術的にも精神的にも大きく成長したとを感じる。また、子どもたちの鑑賞教育に貢献できたものとする。</p>  |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |  |
|----------------------|--|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | 食育教室「お米と健康のタメになる話」<br>田んぼアート田植え作業の食育講演   |
| <b>日時 (期間)</b>       | 平成 25 年 6 月 15 日   |
| <b>場 所</b>           | JA たいせつ直売所内および JA たいせつ倉庫前  |
| <b>参加人数</b>          | 市内市民約 10 名および市内小学生親子 40 組 80 名   |
| <b>担当者</b>           | 生活・技術教育専攻学生 (食生活学ゼミナール)・菅野 友美  |
| <b>概 要</b>           | <p>旭川市を含む上川管内では、米の産地として有名であるが、旭川市民には認知されていない。そこで、米についての知識を身に付けて食生活にもっと米を取り入れてもらえるよう、食育教室を開催した。</p> <p>また、JA たいせつ地域では、地域住民や次世代を担う子供たちに農業、農村地域に興味・関心を持ってもらうこと、生産者と消費者を結ぶ観光スポットの創造を目的として「田んぼアート」に取り組んでいる。</p> <p>田植え作業を行いながら、米についての知識を身に付けてもらうため、食育講演を開催した。</p> |
| <b>成 果</b>           | <p>学外で、小学生やその保護者に食育を伝える良い機会になった。田植え作業の後であったため、米の話は良く伝わったと感じる。反省点もあるが、それを次回に活かしていきたい。</p>   |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |   |
|----------------------|---|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | あさひかわ食楽探検隊  |
| <b>日時 (期間)</b>       | 平成 25 年 7 月 25 日～平成 25 年 9 月 15 日   |
| <b>場 所</b>           | 旭川市役所、アッシュなど  |
| <b>参加人数</b>          | 市内小学生 16 名  |
| <b>担当者</b>           | 生活・技術教育専攻学生 (食生活学ゼミナール)・菅野 友美   |
| <b>概 要</b>           | <p>「あさひかわ食楽探検隊」北北海道のグルメや産物を中心に、各地の自慢の味が一同に集う食の採点「北の恵み 食べマルシェ」の企画の一つである。</p> <p>旭川市内の小学生たちが地域の食について考え、旭川産の食材を使った「まるごと旭川ランチ」を作成し、それを食べマルシェ会場で発表する。</p> <p>すべて小学生が行うが、その発表にむけた調理やグループの話し合いのサポートを本学学生が行った。その様子が北海道新聞に「ぼくたちの旭川をもっとおいしく～「食べマルシェ」の食育事業を追う～」シリーズで4回にわたり掲載された。</p> |
| <b>成 果</b>           | 今回の取り組みは、子どもたちが考え、作り、まとめ、発表するという活動全体に学生関わったという点で、教育大ならではの食育・地域連携の取り組みといえる。  |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |   |
|----------------------|---|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | 「食育と健康」   |
| <b>日時 (期間)</b>       | 平成 25 年 10 月 17 日   |
| <b>場 所</b>           | L301  |
| <b>参加人数</b>          | 本学学生約 100 名   |
| <b>担当者</b>           | 菅野 友美   |
| <b>概 要</b>           | <p>授業の一環として、本学へ渡邊昌先生をお呼びして、講演会を開催した。</p> <p>内容は2点について講演して頂いた。1つ目は、学生の食に関する知識は乏しく、小中学校の家庭科で栄養バランスについて五大栄養素を教える程度、また機能性については、中学校の家庭科でトクホの表示を教える程度のため、食品の機能性については素人な学生に、機能性と健康との関わりについて話して頂いた。</p> <p>もう一つは、今の子ども達は欠食、偏食が多く、特に野菜嫌いが問題になっているため、教員を目指す教育大の学生にとって、野菜の良さ(機能性)を理解し、野菜の大切さを子ども達に教えることで、少しでも子どもの野菜嫌いが無くなればと考え、野菜の大切さなど食と健康についてわかり易く講演して頂いた。</p> |
| <b>成 果</b>           | 学生だけでなく、一般市民にも参加してほしかったが、参加者が少なく、残念だった。今後も本学から、食育を地域へ伝えるよう取り組んでいきたい。  |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |  |
|----------------------|--|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | 食育教室「旭川産の野菜を使ったお菓子を作ろう！」   |
| <b>日時 (期間)</b>       | 平成 25 年 11 月 30 日  |
| <b>場 所</b>           | 旭川市東高鷲活性化センター「野土花」   |
| <b>参加人数</b>          | 市内小学生とその保護者 9 名  |
| <b>担当者</b>           | 生活・技術教育専攻学生（食生活学ゼミナール）・菅野 友美   |
| <b>概 要</b>           | <p>北海道は野菜の生産が盛んであるにもかかわらず、野菜嫌いの子どもの多いのが現状である。嫌いな野菜でも工夫次第で食べやすくなることを伝えるために食育教室を開催した。また、親子で一緒に作ることでコミュニケーションの増加や料理の楽しさを伝えるとともに、地元で作られたピーマンを用いることで地産地消についても学ぶことを目的としている。</p> <p>子どもたちが苦手とする割合が多いピーマンをクッキーに入れるという方法を用い、親子でクッキーを作成し、試食しながら、ピーマンについての食育教室を行った。</p> |
| <b>成 果</b>           | ピーマンが嫌いな子どもも積極的にクッキーを食べていた。自分で料理して食べるということが少なくなっているため、自分で料理したものを食べるという行為が食育にとっても有効であると思われる。  |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |  |
|----------------------|--|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | 上川管内技術・家庭科研究会 スキルアップ研修会<br>「いざは、普段なり ―防災・減災の視点から―」   |
| <b>日時 (期間)</b>       | 平成26年1月16日 (木)   |
| <b>場 所</b>           | 旭川市立神居中学校  |
| <b>参加人数</b>          | 上川管内技術・家庭科研究会に所属する中学校教員・小学校教員・旭川気象台職員・報道関係者・大学生・大学教員 合計21名   |
| <b>担当者</b>           | 渡壁 誠・川邊 淳子   |
| <b>概 要</b>           | <p>この事業は、平成17年度に始まったもので、今年度で9年目となる。上川管内技術・家庭科研究会の先生方を対象に、教員としての指導技能の向上および評価観点の勉強会として、大学が基本的には主体となり、上川管内技術・家庭科研究会の先生方と、企画立案・実施を行っている研修である。</p> <p>記憶にもまだ新しい東日本大震災は、普段の生活が一瞬にして奪われるという怖さと毎日の当たり前の生活こそが大切で尊いものであることを教えてくれた。そこで平成25年度は、防災・減災教育の視点から、北海道教育大学札幌校教授・佐々木貴子先生を講師に迎え、その理論と実践に関する研修会を実施した。理論編では、「いざは、普段なり」の視点からの講義を受講し、実践編では、災害時の食の実践として、ハイゼックスを用いた炊飯と簡単な昼食づくり、ならびにDIG (Disaster&lt;災害&gt;Imagination&lt;想像力&gt;Game&lt;ゲーム&gt;実践として、イメージ訓練と地図上訓練を行った。自助・互助・公助の考えからも、単なる防災教育ではなく、技術・家庭科はもちろん、総合的な学習の時間や学級活動、学校教育の様々な場面で、子どもたちの生きる力の育成や先生方の普段の授業力の向上にも役立つ内容であった。</p> |
| <b>成 果</b>           | 最初は地域貢献プロジェクトの一環として、年度を区切って限定的に行う予定ではあったが、今では、現場の先生方の年間研修計画の中にも入れていただき、大学側から提供するものばかりでなく、先生方の研修ニーズを取り入れたかたちで、毎年講師の選定から研修会の内容構成まで、現場の先生方のアドバイスもいただきながら検討を行うに至っている。  |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |  |
|----------------------|--|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | はらぺこクッキング夏「～フレッシュ野菜できらめきランチ！～」<br>はらぺこクッキング冬「～あったかラーメンづくり隊～」   |
| <b>日時 (期間)</b>       | 平成25年8月11日 (日)<br>平成26年2月22日 (土)   |
| <b>場 所</b>           | 北星公民館 料理講習室  |
| <b>参加人数</b>          | 旭川市内の小学生 (3～6年生) 夏9名・冬20名  |
| <b>担当者</b>           | 生活・技術教育専攻学生 (家庭科教育第2ゼミ)・川邊 淳子  |
| <b>概 要</b>           | <p>この講座は、平成20年度に始まったもので、今年度で6年目となる。ゼミの学生が主体となって、企画立案・案内・実施までを行う、食をテーマとした活動である。対象者は大学近郊の小学生を対象とし、基本的には、夏と冬の年に2回のペースで実施している。</p> <p>平成25年度の夏は、「～フレッシュ野菜できらめきランチ！～」として、野菜が大好きな子どもたちはもちろん、嫌いな子どもたちにも旭川産のおいしい野菜を好きになってもらおうと、野菜いっぱいピサを生地から、デザートとしてほうれん草のカップケーキも一緒に作った。</p> <p>平成25年度の冬は、「～あったかラーメンづくり隊～」として、旭川の名物でもあるラーメンを、道産小麦を用いて麺から手作りし、野菜を切って炒めたりして作った。</p> <p>いずれの活動においても、子どもたちと一緒に料理を作っていくことが活動の大部分を占めるが、試食の時間等を利用し、調理に用いた食材や取り上げた料理等について、クイズ形式で学んでもらったり、学べる活動を目指している。</p> <p>対象としては、基本的には小学校4年生以上の小学生であるが、調理工程によっては学年を下げたりもしている。開催場所は、大学近くの北星公民館以外の公民館や大学または小学校を利用することもあるが、学生自らがチラシなども作成し広報にあたっている。</p> |
| <b>成 果</b>           | 元々は、子どもと関わることが大好きな学生たちが、自らが将来教師として教壇に立つために必要な力を育むことを目的として始めたものではあった。しかし、最近では、この取り組みを楽しみにして連続して参加してくれる子どもたちも増えて来ており、少しずつではあるが、地域に根づきつつある活動であると実感してきている。   |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |   |
|----------------------|---|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | <p>緑が丘中学校・家庭科部支援サポート<br/>「Let's お魚クッキング！ あのジブリ飯を作ってみよう！」</p>  |
| <b>日時 (期間)</b>       | 平成26年3月18日 (火)  |
| <b>場 所</b>           | 旭川市立緑が丘中学校 調理実習室  |
| <b>参加人数</b>          | 中学生8名・大学生ボランティア7名   |
| <b>担当者</b>           | 生活・技術教育専攻学生 (家庭科教育第2ゼミ)・川邊 淳子   |
| <b>概 要</b>           | <p>旭川市立緑が丘中学校の部活動である家庭科部の活動として、大学生として活動を企画・提案し、実際に中学生と活動を行っていく、家庭科部の支援サポートである。</p> <p>平成24年度から始まったものであるが、平成25年度は2回目として、魚嫌いを無くそうをテーマに、「Let's お魚クッキング！ あのジブリ飯を作ってみよう！」として、旬の魚である「ニシン」を素材とし、中学生にもなじみのあるジブリ映画の「魔女の宅急便」に出てくる「ニシンとかぼちゃのパイ包み焼き」を取り上げた。</p> <p>中学校家庭科においても、魚は教材として取り上げる食材ではあるが、鰯の手開きなどは行っているが、なかなか大きめの魚1尾をおろすという経験は少ない。切り身でしかなかなか見ない魚を、おいしくいただくために、ニシン1尾を三枚にさばくことから調理していき、五感を通して魚を知り、好きになってもらうことができるような内容とした。</p> |
| <b>成 果</b>           | <p>部活動の一環であるので、元々家庭科が好きな生徒さん達が参加しているので、技能面においても、知識面においても、授業づくりとはまた違った、興味・関心がより高まるような資料づくりや活動構成の工夫を心掛けなければならない。また、将来中学校教員を志望している大学生にとっては、現場教師からの部活動としての率直な指導・助言もいただくことができ、学びも大きく大変有意義なものである。現在は緑が丘中学校をフィールドに、また食をテーマとした活動サポートをさせてもらっているが、これらをさらに充実させていくことはもちろんのこと、他の中学校においても、またテーマもさらに幅広く対応していけたらと思っている。</p>   |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |  |
|----------------------|--|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | 文学資料館フィールドワーク  |
| <b>日時 (期間)</b>       | 平成25年12月21日、23日  |
| <b>場 所</b>           | 井上靖記念館、三浦綾子記念文学館   |
| <b>参加人数</b>          | 7名   |
| <b>担当者</b>           | 村田裕和   |
| <b>概 要</b>           | <p>近代文学特講(後期)は「地域文学論」をテーマとして、講義・演習・フィールドワークを取り混ぜて授業を行った。その一環として、旭川にゆかりのある作家・作品を深く理解すると同時に、文学館調査の能力を獲得し、地域文化への積極的関心を養うことを目的として、標記の2館にフィールドワークの協力を依頼した。なお学生は、まず2館のうちのいずれかを個別に見学し、その作家の作品研究を授業内で発表している。</p> <p>井上靖記念館では館長の平野氏が展示を詳細に解説していただき、移築された書斎についても丁寧に説明いただいた。三浦綾子記念文学館では学芸員の小泉氏にたっぷり時間を掛けて説明いただいた。いずれも、見学後に質疑応答の時間を設けていただくことができた。文学離れが進む中で、どちらの館でも入場者を増やす工夫を重ねていた。また、対象作家への深い敬愛の念がその努力を支えていることが伝わってきた。</p> |
| <b>成 果</b>           | <p>「文学」を普及する努力を続けている人たちとお会いして、直接話すことを通して、現在進行形としての「文学」に触れ、自分たち自身も地域の「文学空間」の中にいることを実感した。また作品を分かりやすく地域に開くことの難しさと楽しさを学ぶことができた。</p>  |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |   |
|----------------------|---|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | レゴ・マインドストームのレンタルシステムによる自律型ロボット<br>学習に関する実践研究  |
| <b>日時 (期間)</b>       | 平成 25 年 9 月-平成 26 年 3 月   |
| <b>場 所</b>           | 南富良野中学校   |
| <b>参加人数</b>          | 南富良野中学校第 2 学年 19 名  |
| <b>担当者</b>           | 北海道教育大学旭川校 渡壁 誠, 南富良野中学校 小泉匡弘   |
| <b>概 要</b>           | <p>新学習指導要領において、中学校技術家庭科技術分野の内容は大きく変更された。その中でもエネルギー変換に関する技術や計測制御に関する技術などこれまで選択の枠組みで行われてきた内容を必修で学習させることになった。現職教員のこうした変更への対応を支援する一つの方向として、技術教育講座ではレゴ・マインドストームを貸し出すとともに、教員と連携して担当校や学級に則したカリキュラムの開発を行っている。本事業は昨年に引き続き南富良野中学校で実施するものである。昨年度の反省をもとに授業をスタートさせた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. フローチャートなどを用いプログラムに関する基本的な学習</li> <li>2. レゴによるロボットコンテストの紹介とレゴを用いた機構学習<br/>(本学教員による)</li> <li>3. 実際に障害物をよけるロボットとラインレースするロボット、<br/>さらに、ライン上にある障害物をよけてラインレースするロボットにチャレンジする</li> </ol> <p>といった学習を展開する。</p> |
| <b>成 果</b>           | 本年度で 3 年目の実施であり、学校との連携も十分に行われた。また、機構およびプログラムによる計測・制御に関する学習内容についてもスムーズな展開が可能となった。  |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |  |
|----------------------|--|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | 第9回上川管内中学生創造ものづくり教育フェア   |
| <b>日時 (期間)</b>       | 平成25年10月6日   |
| <b>場 所</b>           | 旭川市立北星中学校  |
| <b>参加人数</b>          | 管内中学生 約40名, 中学校教員約20名, 本学学生約20名  |
| <b>担当者</b>           | 北海道教育大学旭川校 渡壁 誠 (同実行委員会実行委員長), 川邊淳子 (副実行委員長)   |
| <b>概 要</b>           | <p>本事業は昨年から10月に開催することになった技術・家庭科における学習内容に関する上川管内の中学生の競技会である。加えて、教員の教科指導や評価の研鑽の機会として位置づけられ、本年度で9回目の実施である。毎年1月に開催される全国大会への出場推薦を引き続き行うことになった。競技会は家庭分野の包丁名人 (あなたのためのハンバーグランチ), 技術分野の木工の匠 (市販キットを用いた木工作品製作) およびロボットコンテストからなる。加えてレゴマインドストームNXTを用いた計測・制御のエキシビジョンも加わった。すべての競技は毎年行われる全国中学生創造ものづくりフェアにおける競技大会の規定を参考に企画され、授業の内容に即したレギュレーションを定め行っている。ロボットコンテストでは8月に事前講習会を本学教員が行っている。講習会において本学学生の製作したロボットを参考にデモンストレーションを行う。フェア当日には学生が全面的にサポートすることにより、現職教員や中学生とのコミュニケーションを図る。加えて、イベントの運営方法を学ぶ</p> |
| <b>成 果</b>           | <p>本学教員と中学校教員との共同作業により両者のコミュニケーションが確立される。学生にとって教育実習以外の活動で現職教員と共同作業を通じて良好な人間関係を築くことができる。また、中学生が競技会に参加することで、ものづくりの喜びを実感し、技術・家庭科の学習成果を発揮する機会をもたらせる。加えて、技術・家庭科の学習内容を社会に周知する機会となる。</p>  |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |   |
|----------------------|---|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | 第3回 U-16 旭川プログラミングコンテスト   |
| <b>日時 (期間)</b>       | 平成 25 年 10 月 13 日   |
| <b>場 所</b>           | 旭川市市民文化会館   |
| <b>参加人数</b>          | 管内中学生 約 20 名, 工業高校および工業高等専門学校学生 20 名  |
| <b>担当者</b>           | 北海道教育大学旭川校 渡壁 誠 (同実行委員会委員)  |
| <b>概 要</b>           | <p>本事業は旭川 ICT 協議会から発案された事業であり、パソコンが好きな中高校生に、プログラムの作成やコンピュータで絵を書くことなどを通して、ICT に対する興味やものづくりの楽しさを感じてもらい、将来の ICT エンジニア・ICT クリエイターの育成を目的としている。コンテストはプログラミングの成果を競う競技部門とデジタルコンテンツ (パソコンで描いた絵やウェブページなど) の出来を競う作品部門からなる。競技部門に関する出前授業が旭川工業高等専門学校および旭川工業高校の生徒によって行われている。また、次年度から中学校技術分野で利用されている教材ロボットを利用した競技部門の設立も視野に入れている。今年度は高等工業専門学校の全国プログラムコンテストが旭川高専の主催で市民文化会館で開催されたため、これと同時開催の形で行った。</p> |
| <b>成 果</b>           | <p>ICT 分野で中学生を対象としたコンテストは全国でも少ない。パソコン好きの中学生に腕試しの機会を提供するとともに、旭川工業高等専門学校生・旭川工業高校生に活躍の場を提供することができた。来年度以降も継続される予定である。本学学生の貢献を考えるよい機会となった。</p>   |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |  |
|----------------------|--|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | 旭川市地域連携アートプロジェクト<br>造形まつり「工作玉手箱！ いろんな形 みつけちゃおう」  |
| <b>日時 (期間)</b>       | 平成 25 年 7 月 27 日(土), 28 日(日)   |
| <b>場 所</b>           | 北海道立旭川美術館  |
| <b>参加人数</b>          | 参加者約 700 名 スタッフ 41 名 (旭川美術館学芸員・職員 3 名、アーティスト 2 名、小中学校教員 14 名、教育大学教員 2 名、教育大学学生 8 名、市内高校生 10 名)   |
| <b>担当者</b>           | 南部正人、名達英詔  |
| <b>概 要</b>           | <p>複数のワークショップを児童、生徒のみならず、広く一般の市民に向けて道立旭川美術館を会場に提供し、地域文化の振興と教育の底上げを図ろうとするものである。本プログラムは、道立旭川美術館学芸員、旭川市および上川地区美術科担当教員、北海道教育大学旭川校教員及び学生の四者が連携し開発した。旭川美術館会場では、旭川美術館から3、美術科担当教員より5、教育大学より2のワークショップブースを計10のワークショップブースを設置し、二日間にわたって開催。参加者はおのおのの取り組みたいブースを選びながら、それぞれに作品を制作した。事前に旭川市内、上川地区のすべての小中学校の児童生徒にチラシを配布するとともに北海道新聞による広告がなされたこともあり、開催当日は旭川市内・周辺地域から多くの来場者を得ることができた。</p> |
| <b>成 果</b>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校児童や保護者をはじめ、幅広い世代に対して造形活動に親しむ機会を効果的に生み出すことができた。</li> <li>・ 地域に開かれた美術館としての活用と周知がはかれた。</li> <li>・ 本プログラムの周知方法とその効果について、参加状況から概要がつかめた。</li> <li>・ 学芸員、教員、学生等、それぞれの立場からのアイデアを活かしたプログラムを実践できた。</li> <li>・ 初めての取り組みである「造形まつり」に対して、運営方法の要点を実践的に探ることができた。</li> </ul>  |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |  |
|----------------------|--|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | 旭川市地域連携アートプロジェクト<br>中原悌二郎賞関連ワークショップ 「コロンブスの卵」  |
| <b>日時 (期間)</b>       | 平成25年10月5日 (土)   |
| <b>場 所</b>           | 北海道教育大学旭川校 第1体育館 (旭川市北門町9丁目)   |
| <b>参加人数</b>          | 上川旭川中学校美術部連携協議会所属校の美術部生徒7校81名<br>指導等参加者26名 (アーティスト1名、旭川市彫刻美術館館長・職員・<br>学芸員5名、道立旭川美術学芸員2名、 中学校教員8名、教育大学教<br>員3名、教育大学学生7名)   |
| <b>担当者</b>           | 南部正人、名達英詔  |
| <b>概 要</b>           | <p>旭川市彫刻美術館が主催する中原悌二郎賞の受賞アーティストとともに旭川市内、上川管内の中学校美術部生徒がワークショップを行い、生徒の鑑賞表現能力向上を目指すプログラムである。</p> <p>2013年度中原悌二郎賞受賞アーティストである彫刻家 植松奎二氏監修のもと、身の周りにある物品を持ち寄り、それらを積み上げて不思議な形と均衡を持った作品をつくり、重力の存在を体感し再認識する。インスタレーション展示と鑑賞を美術部からの制作を通しての感想や氏の講話も交えながら行った。</p> |
| <b>成 果</b>           | 第36回、第37回に続き、その年の中原悌二郎賞受賞者を講師としたワークショップは3回目の実施となった。ワーキンググループ内での協働のあり方や実施手順について確立しつつある。美術部所属の中学校生徒にとって、彫刻家や他校の生徒と交流し共に作業する貴重な機会となっている。また、優れた芸術家から直接指導を受ける機会として、旭川及び近郊の中学生にとっては重要なものとなっている。  |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |  |
|----------------------|--|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | 旭川地域連携アートプロジェクト<br>「岸田劉生」展 鑑賞プログラム   |
| <b>日時 (期間)</b>       | 平成25年6月15日(土), 22日(土), 23日(日), 30日(日)<br>10:00~12:00   |
| <b>場 所</b>           | 北海道立旭川美術館  |
| <b>参加人数</b>          | 参加生徒316名 指導者延べ36名(旭川美術館学芸委員2名, 中学校教員23名, 教育大学教員2名, 教育大学学生9名)   |
| <b>担当者</b>           | 南部正人, 名達英詔   |
| <b>概 要</b>           | <p>本プログラムは, 児童生徒の鑑賞能力向上を目指し, 道立旭川美術館学芸員, 旭川市内中学校美術科担当教員, 北海道教育大学旭川校教員及び学生の三者が協力開発したものであり, 旭川市内・周辺郡部中学校美術部生徒が旭川美術館企画展「岸田劉生」展の作品をギャラリートーク・アートアクティビティ・自由鑑賞の三つの鑑賞プログラムに沿って鑑賞した。</p> <p>所属中学校教員による引率のもと美術館に参集した生徒は, 美術館学芸員, 中学校教員, 大学教員・学生とともに作品を見ながら, それぞれの感想や意見を基に対話をしたり, 気に入った作品の特徴をカードに記し, 他者に紹介する活動を行った。また, その後, 自らの興味・関心に沿い, 作品と向き合ったり, 他校の美術部員との交流を図ったりした。</p> |
| <b>成 果</b>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加生徒においては, 作品の見方や考え方が深まり, 自ら進んで鑑賞しようとする姿が見られるようになった。</li> <li>・ 本鑑賞プログラムに例年参加している生徒においては, 回を重ねることによる学習の積み上げが見られた。</li> <li>・ 鑑賞による内省を促す活動を学芸員や教員とともに学生が開発し, 学習効果を得た。</li> <li>・ 参画する組織による柔軟な協力と運営の合理化により, 効果的なプログラムが実現した。</li> </ul>  |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |   |
|----------------------|---|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | 旭川市地域連携アートプロジェクト<br>旭川市立彫刻美術館巡回展出前授業プログラム   |
| <b>日時 (期間)</b>       | 平成25年8月29日(木)～12月19日(木) 各実施校の授業時間内  |
| <b>場 所</b>           | 旭川市内小中学校, 盲学校   |
| <b>参加人数</b>          | 参加児童生徒773名 参加保護者若干名 指導等参加者12名(彫刻美術館学芸員2名, 小中学校教員16名, 教育大学教員1名, 教育大学学生11名)   |
| <b>担当者</b>           | 名達英詔  |
| <b>概 要</b>           | <p>中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館が従前より取り組みつつも期待する地域の美術文化振興に結び付きにくかった市内小・中学校への彫刻作品貸出巡回展を有効活用するための鑑賞プログラムである。</p> <p>本プログラムは, 市内小中学校教員, 彫刻美術館学芸員, 教育大学教員および学生により開発され, 鑑賞者の発達に応じ, 全体ガイダンス・対話型鑑賞・体感型鑑賞によって構成されている。</p> <p>本年度は, 市内10の小中学校・盲学校の児童生徒を対象に延べ26回の授業が実施された。また, 旭川市立愛宕小学校, 北海道旭川盲学校において本プログラムを対象とした教員研修会を実施した。</p>                                |
| <b>成 果</b>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加児童・生徒・教職員の活動の様子, 事後アンケートの結果から参加者の満足度が高く, 彫刻の鑑賞に対する意欲の向上, 美術館及び美術作品への関心の高まりといった学習効果が見られた。</li> <li>・ 教員研修により, 鑑賞学習および本プログラムへの理解が図られた。</li> <li>・ 学習参観日の出前授業実施により保護者の参加が見られた。</li> <li>・ 参加スタッフにおいて, 子どもの発達に応じた鑑賞プログラム開発への意識が高まった。</li> <li>・ 教員研修への参加, 鑑賞授業の実施を通じた学生の教育実践力向上が図られた。</li> </ul> |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |   |
|----------------------|---|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | 学習支援ボランティア団体「ゆずりは」  |
| <b>日時 (期間)</b>       | 平成 23 年 7 月 23 日～継続中 (平成 26 年 3 月現在、毎週火・土の週 2 回実施、今後も継続予定)  |
| <b>場 所</b>           | 旭川市北星地区センター<br>(旭川市旭町 2 条 8 丁目)   |
| <b>参加人数</b>          | のべ 42 人 (国語教育専攻、英語教育専攻、社会科教育専攻、数学教育専攻、理科教育専攻、理科教育専攻、生活・技術教育専攻、芸術・保健体育教育専攻)  |
| <b>担当者</b>           | 野村 忠央   |
| <b>概 要</b>           | <p>一昨年、英語教育専攻に在学している学生を発起人とし、ほぼ全専攻の学生に声を掛け、旭川市内の小・中学生及び高校生に無償で学習支援を行うべく設立された。</p> <p>現在の日本の公教育を補うものとして学習塾や家庭教師が存在するわけだが、親の経済状況その他によって、それを享受できない児童・生徒も少なからず存在する。そのような状況を少しでも是正してしたいという気持ちの有志が集まって、このボランティアが立ち上がった。</p> <p>具体的な活動としては、週 2 回火・土の 18:00～21:00 の時間帯に旭川市北星地区センターの 2 教室を借り、教科は 5 教科全てを対象としている。しかし、それを塾や家庭教師のように一律に強制してやらせるのではなく (持ち物も筆記用具あるいは自習道具だけ)、当該の小・中学生及び高校生が、任意の曜日、任意の時間 (部活動や生徒会活動の時間の後など) に、学校の勉強の予習・復習や、長期休業中の課題などで勉強していてわからないことなどを、いつでも自由に質問や勉強をしに来て欲しいというスタンスで活動を行っている。(「ゆずりは」のホームページも残っているので、より詳細な活動に内容については、そちらを参照されたい。)</p> |
| <b>成 果</b>           | <p>一昨年、開設に苦労したこの活動も、早いもので、3 年目に入った。学生たちも役員を交替し (本学では教育実習で多忙な 3 年生は夏休みに活動ができないため、本団体では 2 年生が役員として活躍している)、新たな課題に直面しながら、様々な経験、勉強をしていると思われる。保護者・学校・地域の理解や協力が不可欠であるということはもちろんのこと、運営のための人員、場所、経費の確保などの活動のマネジメン</p>  |

ト、あるいは、教員を目指す彼らにとって、自分の専門教科以外の教科を教える難しさ、あるいは塾のような統一教材がない状態で、学習レベルが異なる生徒が混在している中、静謐な環境を保ちつつ活動を発展させていく困難さなどである。

また、昨年度までは、木・土に、シフトをほぼ毎月固定して活動をしていたが、本校では専攻分野別グループ集会（ゼミ）が金曜であるため、その前日の木曜の活動が難しい、あるいはメンバーがいつも固定してしまう、などの問題点に鑑み、本年度より、曜日を火・土に変更し、また、シフトも毎月ごとに本人が申請し、シフトを役員が調整して、割り振る形態に変更した。しかし、どちらの方式も一長一短があることに学生は気付いたようである。また、本年3月には、この団体を立ち上げ、積極的に活動してくれた4年生たちがみな卒業を迎えた（加えて、設立当時に最初に足を運んでくれた中学生も少なからぬ人数の生徒さんが同様に卒業を迎えた）わけで、今後の活動に対して、下級生たちは何らかの不安を感じているであろう。いずれにせよ、ゆずりはの活動を今後も継続していくためには、残された在校生の協力、次の役員担当学年の努力、そして新入生の勧誘が重要であることは言うを俟たない。

うれしい成果としては、昨年度、地元誌「あさひかわ新聞」の取材があり、半ページの大きな誌面を使って活動が紹介されたが、それに引き続いて、今年度も「北海道新聞」の取材が数度にわたりあった。また、旭川市役所の担当部署や同様の目的を掲げる他団体からの照会もあった。

筆者は彼らの定例会にも可能な限り参加するよう努めているが、その中で、彼ら学生たちは、手探りの中、思いがけない課題や問題に直面し、それらを克服しようと努力している。筆者としては今後とも、協力できることは協力し、見守っていきたいと考えている。

## 地域教育連携 報告シート

|                      |  |
|----------------------|--|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | 通学合宿事業「はまとんべつ寺子屋塾」   |
| <b>日時 (期間)</b>       | 2013年6月30日～7月5日  |
| <b>場 所</b>           | 頓別コミュニティセンター   |
| <b>参加人数</b>          | 小学生15名 大学院生1名  |
| <b>担当者</b>           | 地域連携・貢献推進委員会   |
| <b>概 要</b>           | <p>本事業は、浜頓別町教育委員会が主催するもので、「子どもたちが、異年齢の集団の中で共同生活をしながら通学をする生活体験により、協調性や社会性を養うことを目的とする」ものである。募集人数は15名で、小学校4年生から6年制が対象である。</p> <p>本学は、浜頓別町との相互協力協定に基づき、本事業に対して学生の派遣を継続して行ってきた。本年度は、家政教育専修の大学院生が全日程に参加した。</p> <p>本年度は以下のようなスケジュールとなっている。</p> <p>6月30日 オリエンテーション・夕食作り・銭湯体験<br/>7月1日～4日 朝食作り・夕食作り・銭湯体験・後片付け<br/>7月5日 朝食作り・まとめ</p>               |
| <b>成 果</b>           | <p>浜頓別町教育委員会からは、以下のようなお礼のメールが届いている。</p> <p>「派遣頂きました遠藤さんについては朝早くから夜遅くまで（朝5時半から夜1時）お手伝い頂きました。運営や子どものサポートをたくさんして頂き、スタッフ含め本当に貴重な経験をさせて頂きました。本当にありがとうございました。</p> <p>今回は遠藤さんに保護者宛のお便りの作成を任せてみました。突然のお仕事の内容にちょっと驚いたようです。が数名の保護者から「とても子どもの様子が伝わる文章で、直接会ってお礼を言いたい」「うちの子を1週間見て頂いて本当にありがとう」など今までにはない保護者の声が寄せられました。本当に素晴らしい方を派遣頂いたことに心から感謝しています。</p> |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |  |
|----------------------|--|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | 北海道教育委員会「ボランティアバンク事業」にかかる<br>道北地域の学習サポート   |
| <b>日時 (期間)</b>       | 2013年7月25日～31日   |
| <b>場 所</b>           | 美深町・和寒町・東川町  |
| <b>参加人数</b>          | 学部4年生8名  |
| <b>担当者</b>           | 地域連携・貢献推進委員会   |
| <b>概 要</b>           | <p>本事業は、北海道教育委員会が中心となって「道内の市町村等が実施する教育活動の支援を行う学生ボランティアを募集」するものである。本学の学校・地域教育研究支援センターが窓口となり、学生がボランティア登録を行った上で、市町村等の事業に参加するものである。</p> <p>本年度、道北地域で7月下旬に行われる事業への参加者が確保できなかったため、緊急に当委員会が派遣学生の手当てを行ったものである。なお、学生が派遣された事業は以下のとおりである。</p> <p>7月25日            美深町学習サポート事業    2名<br/> 7月29日～31日    和寒町学習サポート事業    1名<br/> 7月29日～31日    東川町夏休み学習サポート事業    5名（日帰り）</p> |
| <b>成 果</b>           | <p>参加学生は教職志望であるが、ボランティア経験のないものも多かったため、教員採用2次試験を前に、児童・生徒との関わりを持つことができたことに有益さを感じている。</p> <p>大学としても、実施間近の時期の要請に対して学生派遣を実現したことで、地域社会に対して一定の役割を果たすことができたと評価することができる。</p>  |

## 地域教育連携 報告シート

| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | 枝幸町大学生フレンドシップ事業  |      |     |    |    |        |             |     |     |        |     |      |     |        |      |     |     |
|----------------------|--|------|-----|----|----|--------|-------------|-----|-----|--------|-----|------|-----|--------|------|-----|-----|
| <b>日時 (期間)</b>       | 2013 年 11 月 26 日～29 日  |      |     |    |    |        |             |     |     |        |     |      |     |        |      |     |     |
| <b>場 所</b>           | 枝幸町立の小中学校 10 校   |      |     |    |    |        |             |     |     |        |     |      |     |        |      |     |     |
| <b>参加人数</b>          | 教員 3 名 大学 4 年生 8 名   |      |     |    |    |        |             |     |     |        |     |      |     |        |      |     |     |
| <b>担当者</b>           | 地域連携・貢献推進委員会、渡壁誠   |      |     |    |    |        |             |     |     |        |     |      |     |        |      |     |     |
| <b>概 要</b>           | <p>本事業は、枝幸町教育委員会が主催するもので、本学旭川校は、枝幸町との協力協定に基づき、毎年大学生の派遣を行っている。本年度は 5 回目の参加である。</p> <p>本事業は、配属校設定プログラムと学生提供プログラムからなり、前者は学校行事支援・授業 TT・給食指導・休み時間交流等で構成され、後者は、所属専攻分野の専門性を活かした活動であり、本年度は、体育・技術・社会の 3 グループが参加、体育グループは「ニュースポーツ」、技術グループは「レゴ・マインドストーム NXT でライントレースに挑戦」、社会グループは「47 都道府県クイズに挑戦」を提案した。なお、技術・社会については、教職実践演習の一環として活動を展開している。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">体育</th> <th style="text-align: center;">技術</th> <th style="text-align: center;">社会</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">11月27日</td> <td style="text-align: center;">音標小<br/>風烈布小</td> <td style="text-align: center;">歌登小</td> <td style="text-align: center;">歌登中</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">11月28日</td> <td style="text-align: center;">岡島小</td> <td style="text-align: center;">乙忠部小</td> <td style="text-align: center;">枝幸小</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">11月29日</td> <td style="text-align: center;">目梨泊小</td> <td style="text-align: center;">間牧小</td> <td style="text-align: center;">山臼小</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業実施にあたっては、枝幸町教育委員会は、各学校との調整、旭川から枝幸への移動も含めた参加学生の移動について、本学は、提供プログラムの開発・実施、宿泊費および用具材料の費用負担について責任を持つこととしている。</p> |      | 体育  | 技術 | 社会 | 11月27日 | 音標小<br>風烈布小 | 歌登小 | 歌登中 | 11月28日 | 岡島小 | 乙忠部小 | 枝幸小 | 11月29日 | 目梨泊小 | 間牧小 | 山臼小 |
|                      | 体育   | 技術   | 社会  |    |    |        |             |     |     |        |     |      |     |        |      |     |     |
| 11月27日               | 音標小<br>風烈布小  | 歌登小  | 歌登中 |    |    |        |             |     |     |        |     |      |     |        |      |     |     |
| 11月28日               | 岡島小  | 乙忠部小 | 枝幸小 |    |    |        |             |     |     |        |     |      |     |        |      |     |     |
| 11月29日               | 目梨泊小   | 間牧小  | 山臼小 |    |    |        |             |     |     |        |     |      |     |        |      |     |     |
| <b>成 果</b>           | <p>枝幸町教育委員会からの依頼で学生にアンケートが行われたが、教職を目指す者にとっては、その意識を一層高いものにすることになっただけでなく、僻地小規模校の現実を理解するよいきっかけともなった。</p> <p>後日、枝幸町教育委員会から送信されたメールでは、「各学校においても評判がよく、喜んでいただきました」とのコメントをいただいている。</p>   |      |     |    |    |        |             |     |     |        |     |      |     |        |      |     |     |

## 地域教育連携 報告シート

|                      |  |
|----------------------|--|
| <b>テーマ<br/>(事業名)</b> | 中頓別町放課後子ども教室 (冬休み)<br>「冬休みチャレンジ教室 in 2014」   |
| <b>日時 (期間)</b>       | 2014 年 1 月 17 日～19 日   |
| <b>場 所</b>           | 中頓別町民センター  |
| <b>参加人数</b>          | 大学院生 1 名   |
| <b>担当者</b>           | 地域連携・貢献推進委員会   |
| <b>概 要</b>           | <p>本事業は、中頓別町教育委員会の主催で、「冬季休業期間中の子どもたちの安全・安心な活動拠点を設けるため、地域社会の中で、異年齢の子ども・大人との交流並びに子どもたちの体験活動を通じ、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するとともに、地域の特色を活かした多様な学習機会を提供し、地域教育力の向上を図ることを目的と」し、「今回は、運動と学習における目的を定め、挑戦する意欲を高める活動内容で進め、児童の体力づくりと学力向上を図る」というミッションが付加されている。</p> <p>本学は、中頓別町との相互協力協定に基づき学生派遣を継続して行っている。本年度は、当初 2 名の予定であったが、開催間近になって 1 名が感染性疾患に罹患し、大学院生 1 名のみの参加となった。プログラムは以下のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 1 日目午後 学習 (2 時間)・遊び、運動 (2 時間) ～コマ、剣玉など昔のおもちゃ ～キックベース、ドッチボール</li> <li>◆ 2 日目午前 スキー場でスキーやスノボで遊ぶ</li> <li>◆ 午後 地元産大豆で豆腐作り (2 時間)、地元歌手によるミニコンサート (変更あり) 2 時間、夕食作り (2 時間)</li> <li>◆ 3 日目午前 カルタ大会 (変更あり)</li> </ul> |
| <b>成 果</b>           | <p>参加した大学院生からは、将来小学校教員を目指している立場から鑑みて非常に有益な機会を与えられて感謝しているとの感想をもらっている。また、20 歳前後の人材が薄い道北地域において、教育大生の果たす役割は大きく、中頓別町からも、地域社会の期待も大きいとのコメントをいただいている。</p>  |

# 付 属 資 料

# 学生ボランティア派遣事業(概要)

北海道教育大学旭川校  
地域教育連携・貢献推進委員会

## 1 本事業のねらい

相互協力協定を締結している北海道教育大学と旭川市との協力事業の一つとして、旭川校の学生を派遣要請のあった旭川市内の小・中学校に派遣することを通し、学生のボランティア意識の高揚や教職に求められる資質能力の向上を期待するとともに、確かな学力や豊かな人間性などの育成を目指し、児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな教育活動を支援することにより、地域社会への貢献と旭川校の実践的教育研究の充実を図る。

\* 指導の補助者(assistant)としての派遣である。

## 2 事業開始

2005(平成17)年(後期 12月)

\* 当初、3年計画で実施。その後、事業の成果に鑑み継続実施し、現在に至っている。

## 3 活動内容

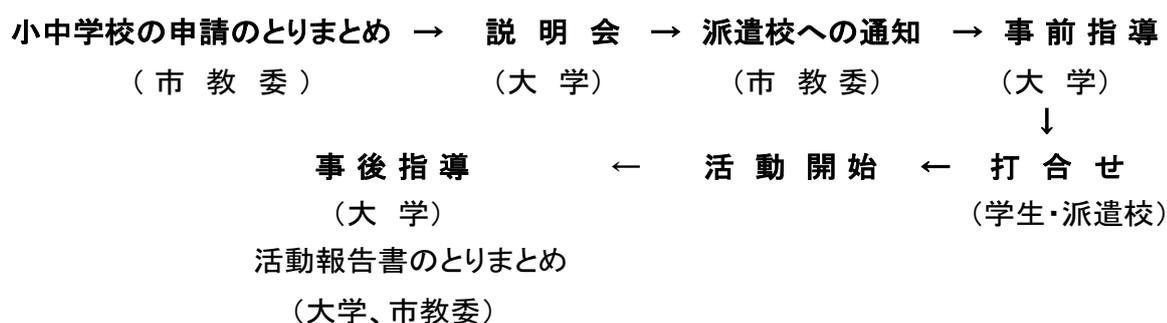
少年団活動や部活動を除く、教育課程内の教育活動(学習指導、特別支援学級支援等)

## 4 学生派遣までの過程等

(1) 1年を前・後期の2期に分けて実施

前期:5月～9月 後期:10月～2月

(2) 学生派遣までの流れ(前、後期共通)



(3) 活動計画書及び報告書Ⅰ・Ⅱの提出

・活動計画書:活動開始前に、学校との打合せ終了後に大学に提出

・活動報告書Ⅰ・Ⅱ:活動終了後に大学に提出

(4) 学生ボランティア派遣事業連絡協議会の開催

年度末の3月に、旭川教育委員会・旭川市小、中学校校長会・大学の三者でその年度の事業全体にわたっての事業報告・協議等を行い、次年度に生かす。

## 5 派遣校及び派遣学生の実績数（2005年度後期 ～ 2013年度）

| 年 度            | 期   | 小 学 校 |      |       | 中 学 校 |      |       | 派 遣<br>総 数 |
|----------------|-----|-------|------|-------|-------|------|-------|------------|
|                |     | 申請校数  | 派遣校数 | 派遣学生数 | 申請校数  | 派遣校数 | 派遣学生数 |            |
| 2005 (平17)     | 後 期 | 28    | 24   | 97    | 9     | 6    | 9     | 106        |
| 2006<br>(平成18) | 前 期 | 20    | 20   | 70    | 10    | 7    | 8     | 78         |
|                | 後 期 | 27    | 21   | 61    | 8     | 3    | 5     | 66         |
| 2007<br>(平成19) | 前 期 | 21    | 17   | 63    | 5     | 1    | 3     | 71         |
|                | 後 期 | 30    | 18   | 49    | 5     | 3    | 6     | 55         |
| 2008<br>(平成20) | 前 期 | 24    | 18   | 54    | 9     | 2    | 9     | 63         |
|                | 後 期 | 32    | 22   | 62    | 7     | 6    | 15    | 77         |
| 2009<br>(平成21) | 前 期 | 27    | 17   | 80    | 8     | 4    | 11    | 91         |
|                | 後 期 | 27    | 20   | 75    | 9     | 7    | 19    | 94         |
| 2010<br>(平成22) | 前 期 | 19    | 7    | 27    | 10    | 7    | 11    | 38         |
|                | 後 期 | 28    | 17   | 59    | 13    | 11   | 26    | 85         |
| 2011<br>(平成23) | 前 期 | 21    | 12   | 33    | 9     | 7    | 10    | 43         |
|                | 後 期 | 34    | 12   | 41    | 13    | 10   | 25    | 67         |
| 2012<br>(平成24) | 前 期 | 13    | 11   | 22    | 10    | 2    | 2     | 24         |
|                | 後 期 | 34    | 15   | 33    | 15    | 6    | 13    | 46         |
| 2013<br>(平成25) | 前 期 | 28    | 15   | 45    | 10    | 5    | 11    | 56         |
|                | 後 期 | 36    | 12   | 76    | 12    | 9    | 31    | 117        |

\* 派遣学生数については、一人で複数校参加もあり、のべ人数を示す。

## 6 活動内容の概要（2005年度後期 ～ 2013年度）

事業開始3～4年間は、特別支援学級への参加希望が多かったが、その後は、学習指導への参加が多くなってきている。

### (1) 学習指導の補助

#### ◎ 小学校における算数や中学校における数学、英語学習の補助

- ・ 最近の傾向として、中学校の放課後学習への要請が増加している。
- ・ 小学校においては、学力の身に付いていない及び軽度発達障害を持った児童への個別支援が多い。
- ・ ミシン学習、水泳学習、スキー学習における個別補助
- ・ 生活科や総合学習で校外に出かける際の引率補助

### (2) 特別支援学級の児童生徒への指導補助

- ◎ 学習及び生活全般にわたる補助
- ◎ 普通学級との交流学习の際の補助
- ◎ 運動会や学芸会の際の補助

### (3) 学校行事への補助

#### ◎ 運動会、遠足などの補助

かつては、夏季休業中に行われる【よさこい】の指導要請(前段の練習段階から)に応えたこともあった。

### (4) 学校図書館運営の補助

- ◎ 学校図書館充実への補助
- ◎ 図書委員会活動への補助
- ◎ 本の読み聞かせ活動への補助

### (5) 不登校傾向の児童生徒への指導補助

### 7 学年・男女別派遣学生実績数(2005年度後期～2013年度)

| 年度             | 期   | 性別  | 院 生 | 4年生 | 3年生 | 2年生 | 1年生 | 計  |
|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 2005<br>(平成17) | 後 期 | 男 子 | 0   | 2   | 1   | 6   | 0   | 9  |
|                |     | 女 子 | 2   | 12  | 12  | 4   | 1   | 31 |
|                | 計   | 2   | 14  | 13  | 10  | 1   | 40  |    |
| 2006<br>(平成18) | 前 期 | 男 子 | 0   | 7   | 1   | 0   | 2   | 10 |
|                |     | 女 子 | 0   | 5   | 5   | 0   | 0   | 10 |
|                | 後 期 | 男 子 | 1   | 32  | 7   | 4   | 0   | 44 |
|                |     | 女 子 | 1   | 27  | 8   | 4   | 0   | 40 |
| 計              | 2   | 71  | 21  | 8   | 2   | 104 |     |    |
| 2007<br>(平成19) | 前 期 | 男 子 | 0   | 7   | 4   | 4   | 0   | 15 |
|                |     | 女 子 | 0   | 7   | 1   | 1   | 0   | 9  |
|                | 後 期 | 男 子 | 1   | 19  | 17  | 4   | 0   | 41 |
|                |     | 女 子 | 0   | 15  | 16  | 1   | 0   | 32 |
| 計              | 1   | 48  | 38  | 10  | 0   | 97  |     |    |
| 2008<br>(平成20) | 前 期 | 男 子 | 0   | 7   | 6   | 0   | 0   | 13 |
|                |     | 女 子 | 0   | 29  | 8   | 4   | 0   | 41 |
|                | 後 期 | 男 子 | 0   | 4   | 12  | 9   | 4   | 29 |
|                |     | 女 子 | 0   | 15  | 23  | 10  | 1   | 49 |
| 計              | 0   | 55  | 49  | 23  | 5   | 132 |     |    |
| 2009<br>(平成21) | 前 期 | 男 子 | 1   | 18  | 13  | 3   | 3   | 38 |
|                |     | 女 子 | 0   | 23  | 13  | 8   | 1   | 45 |
|                | 後 期 | 男 子 | 1   | 19  | 13  | 2   | 0   | 35 |
|                |     | 女 子 | 0   | 14  | 20  | 3   | 0   | 37 |
| 計              | 2   | 74  | 59  | 16  | 4   | 155 |     |    |
| 2010<br>(平成22) | 前 期 | 男 子 | 0   | 9   | 3   | 0   | 1   | 13 |
|                |     | 女 子 | 0   | 21  | 0   | 0   | 0   | 21 |
|                | 後 期 | 男 子 | 0   | 10  | 18  | 1   | 1   | 30 |
|                |     | 女 子 | 0   | 10  | 27  | 0   | 0   | 37 |
| 計              | 0   | 50  | 48  | 1   | 2   | 101 |     |    |
| 2011<br>(平成23) | 前 期 | 男 子 | 1   | 15  | 1   | 0   | 0   | 17 |
|                |     | 女 子 | 0   | 16  | 0   | 0   | 0   | 16 |
|                | 後 期 | 男 子 | 1   | 13  | 6   | 6   | 0   | 26 |
|                |     | 女 子 | 0   | 19  | 11  | 1   | 0   | 31 |
| 計              | 2   | 63  | 18  | 7   | 0   | 90  |     |    |
| 2012<br>(平成24) | 前 期 | 男 子 | 2   | 3   | 1   | 0   | 0   | 6  |
|                |     | 女 子 | 0   | 6   | 4   | 3   | 0   | 13 |
|                | 後 期 | 男 子 | 2   | 3   | 13  | 0   | 0   | 18 |
|                |     | 女 子 | 1   | 4   | 12  | 1   | 0   | 18 |
| 計              | 5   | 16  | 30  | 4   | 0   | 55  |     |    |
| 2013<br>(平成25) | 前 期 | 男 子 | 2   | 6   | 3   | 0   | 11  | 22 |
|                |     | 女 子 | 0   | 4   | 5   | 0   | 6   | 15 |
|                | 後 期 | 男 子 | 2   | 25  | 5   | 1   | 11  | 44 |
|                |     | 女 子 | 0   | 17  | 7   | 2   | 6   | 32 |
| 計              | 4   | 52  | 20  | 3   | 34  | 113 |     |    |

### 8 成果と課題(2005年度後期～2013年度)

#### 1 成 果

- (1) 大学としての主たる目的である地域貢献に寄与するとともに、教職を目指す学生にとっての実践的資質能力の習得に大きな貢献となっている。
- (2) 受け入れ学校及び旭川市教育委員会にとって、欠かすことのできない事業となっている。

#### 2 課 題

- (1) 参加学生増への取り組み (2) 遠距離学校への派遣 (3) 同一校への継続参加

平成25年度 授業公開講座一覧

| 開講 | 講座(授業)名          | 担当教員                   | 対象   | 期 間                    |
|----|------------------|------------------------|------|------------------------|
| 前期 | 化学概論 I           | 浅川 哲弥                  | 市民一般 | 25.04.10~25.07.24(15回) |
|    | 有機化学             | 浅川 哲弥                  | 市民一般 | 25.04.10~25.07.24(15回) |
|    | 物理学概論 I          | 阿部 修                   | 市民一般 | 25.04.09~25.07.23(15回) |
|    | 漢文学特論A           | 大橋 賢一                  | 市民一般 | 25.04.15~25.07.22(15回) |
|    | 漢文講読 I           | 大橋 賢一                  | 市民一般 | 25.04.15~25.07.22(15回) |
|    | 社会学特講            | 角 一典                   | 市民一般 | 25.04.10~25.07.24(15回) |
|    | 社会学概論            | 角 一典                   | 市民一般 | 25.04.15~25.07.29(15回) |
|    | 社会学演習 I          | 角 一典                   | 市民一般 | 25.04.15~25.07.29(15回) |
|    | 音楽史 I            | 菅野 道雄                  | 市民一般 | 25.04.10~25.07.31(15回) |
|    | 環境地理学            | 氷見山幸夫                  | 市民一般 | 25.04.09~25.07.23(10回) |
|    | 自然地理学            | 氷見山幸夫                  | 市民一般 | 25.04.10~25.07.24(15回) |
|    | 創作 II (漢字かな交じり文) | 矢野 敏文                  | 市民一般 | 25.04.18~25.08.01(15回) |
| 後期 | 短詩形文学入門          | 伊藤 一男                  | 市民一般 | 25.10.03~26.01.30(12回) |
|    | 漢文講読 II          | 大橋 賢一                  | 市民一般 | 25.10.07~26.02.03(15回) |
|    | 漢文学特別演習          | 大橋 賢一                  | 市民一般 | 25.10.07~26.02.03(15回) |
|    | 社会調査論            | 角 一典                   | 市民一般 | 25.10.03~26.01.30(15回) |
|    | 現代と社会            | 角 一典<br>千葉 胤久<br>海老名 尚 | 市民一般 | 25.10.07~26.02.03(15回) |
|    | 社会科学入門           | 角 一典<br>海老名 尚<br>西村 邦行 | 市民一般 | 25.10.03~26.01.30(15回) |
|    | 社会学演習 II         | 角 一典                   | 市民一般 | 25.10.07~26.02.03(15回) |
|    | 哲学概論             | 佐々木 周                  | 市民一般 | 25.10.02~26.01.22(15回) |
|    | 小学校図画工作科教育法      | 名達 英詔<br>南部 正人         | 市民一般 | 25.10.01~26.01.28(14回) |

| 開講 | 講座(授業)名   | 担当教員  | 対象   | 期 間                    |
|----|-----------|-------|------|------------------------|
| 後期 | 外国地誌      | 氷見山幸夫 | 市民一般 | 25.10.09～26.01.29(14回) |
|    | 日本文学史(近代) | 村田 裕和 | 市民一般 | 25.10.01～26.01.21(15回) |
|    | デザイン概論    | 八重樫良二 | 市民一般 | 25.10.01～26.12.17(11回) |

## 学 校 訪 問 等

25.4.1～26.3.31

| 来校日      | 来校した学校(学年)        | 来校人数 | 内 容                    |
|----------|-------------------|------|------------------------|
| 25.04.12 | 北海道紋別高等学校(1年生)    | 40名  | 大学案内、施設見学              |
| 25.04.24 | 北海道網走南ヶ丘高等学校(1年生) | 99名  | 大学案内、施設見学              |
| 25.05.17 | 北海道遠軽高等学校(1年生)    | 93名  | 大学授業の受講、施設見学           |
| 25.07.03 | 大空町立女満別小学校(6年生)   | 3名   | 大学案内、施設見学              |
| 25.08.09 | 仙台育英学園高等学校(3年生)   | 1名   | 大学案内、施設見学              |
| 25.09.04 | 旭川実業高等学校(2年生)     | 29名  | 大学案内、施設見学              |
| 25.09.05 | 旭川市立永山中学校(3年生)    | 35名  | 大学授業の受講、施設見学           |
| 25.09.25 | 北海道留萌高等学校(1年生)    | 26名  | 大学授業の受講、施設見学           |
| 25.10.22 | 北海道旭川西高等学校(1年生)   | 240名 | 大学案内、大学授業の受講           |
| 25.10.23 | 旭川市立東光中学校(2年生)    | 3名   | 大学授業の受講、施設見学           |
| 26.03.27 | 北海道旭川東高等学校        | 21名  | 教員志望の生徒によるグループディスカッション |

## 出 前 授 業

25.4.1～26.3.31

| 訪問日      | 訪問した学校(学年)         | 参加人数 | 内 容   |
|----------|--------------------|------|---|
| 25.07.18 | 北海道旭川西高等学校(2年生)    | 34名  | 授業テーマ「『世界とつながる日常生活』という視点の重要性-社会科教育に求められる視座-」<br>派遣教員:角 一典 |
| 25.07.19 | 北海道旭川凌雲高等学校(2年生)   | 38名  | 授業テーマ「これからの学習指導の在り方」<br>派遣教員:笠井 稔雄                        |
| 25.10.24 | 北海道旭川南高等学校(2年生)    | 65名  | 授業テーマ「教育」について<br>派遣教員:杉江 光                                |
| 25.11.06 | 北海道札幌新川高等学校(1～2年生) | 25名  | 授業テーマ「何故、人はスポーツに駆り立てられるのか？」<br>派遣教員:小谷 克彦                 |

平成25年度 審議会等委員派遣一覧

25.4.1～26.3.31

| 委嘱された審議会・委員会等               | 任        | 期          |
|-----------------------------|----------|------------|
| 旭川市民生委員推薦会委員                | 22.06.01 | ～ 25.05.31 |
| 旭川市環境部審議会委員                 | 23.04.06 | ～ 25.04.05 |
| 道北地方医療安全推進協議会委員             | 23.04.06 | ～ 25.04.05 |
| 旭川市民文化会館運営審議会委員             | 23.07.01 | ～ 25.06.30 |
| 旭川市井上靖記念館運営協議会委員            | 23.08.01 | ～ 25.07.31 |
| 旭川家庭裁判所委員会委員                | 23.08.01 | ～ 25.07.31 |
| 旭川市工芸技術センター運営委員会委員          | 23.08.02 | ～ 25.08.01 |
| 旭川市音楽堂等運営協議会委員              | 23.09.01 | ～ 25.08.31 |
| 旭川市国民健康保険運営協議会委員            | 23.09.01 | ～ 25.08.31 |
| 旭川市食品産業支援センター運営委員           | 23.09.07 | ～ 25.09.06 |
| 旭川市情報公開・個人情報保護委員会委員         | 23.10.01 | ～ 25.09.30 |
| 旭川市公民館運営協議会委員               | 23.11.01 | ～ 25.10.30 |
| 旭川市図書館協議会委員                 | 23.12.01 | ～ 25.11.30 |
| 旭川市工芸センター運営委員会委員            | 23.12.01 | ～ 25.11.30 |
| 簡易裁判所判事推薦委員会委員              | 23.12.18 | ～ 26.12.17 |
| 旭川市住居表示等審議会委員               | 24.01.26 | ～ 26.01.25 |
| 旭川市野外彫刻設置・管理検討会議委員          | 24.02.21 | ～ 26.02.20 |
| 旭川市市民参加推進会議委員               | 24.02.27 | ～ 26.02.26 |
| 旭川市消費生活会議委員                 | 24.03.02 | ～ 26.03.01 |
| 上川圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会推進委員 | 24.04.01 | ～ 26.03.31 |
| 旭川市開発審査会委員                  | 24.04.01 | ～ 26.03.31 |
| 旭川市社会教育委員                   | 24.05.01 | ～ 26.04.30 |
| 旭川市都市計画審議会委員                | 24.05.01 | ～ 26.04.30 |
| 国立大雪青少年交流の家施設業務運営委員会委員      | 24.05.22 | ～ 26.03.31 |
| 旭川市特別支援教育推進委員会委員            | 24.06.01 | ～ 26.05.31 |
| 中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館協議会委員        | 24.06.01 | ～ 26.05.31 |
| 北海道スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員 | 24.06.01 | ～ 27.03.31 |
| 北海道立旭川美術館協議会委員              | 24.06.10 | ～ 26.06.09 |
| 旭川市食育推進会議委員                 | 24.06.21 | ～ 26.06.20 |

| 委嘱された審議会・委員会等                  | 任 期      |   |          |
|--------------------------------|----------|---|----------|
| 特別支援連携協議会委員及び専門家チーム委員          | 24.06.21 | ～ | 26.06.20 |
| 北彩都あさひかわ開発促進期成会常任委員            | 24.06.26 | ～ | 25.05.31 |
| 旭川市まちづくり基本条例市民検討会議委員           | 24.07.01 | ～ | 26.10.31 |
| 旭川市生活館運営審議会委員                  | 24.07.07 | ～ | 26.07.06 |
| 旭川市文化財審議会委員                    | 24.08.01 | ～ | 26.07.31 |
| 旭川市博物科学館協議会委員                  | 24.09.01 | ～ | 26.08.31 |
| 旭川市景観審議会委員                     | 24.09.24 | ～ | 26.09.23 |
| 旭川市景観アドバイザー                    | 24.10.30 | ～ | 26.10.29 |
| 旭川市環境審議会委員                     | 24.12.27 | ～ | 26.12.26 |
| 旭川市地方裁判所専門委員                   | 25.02.28 | ～ | 27.02.27 |
| 旭川市職員相談室相談員                    | 25.04.01 | ～ | 26.03.31 |
| 旭川市奨学生等選考委員会委員                 | 25.04.01 | ～ | 29.03.31 |
| 旭川市就学助成制度検討懇話会委員               | 25.05.10 | ～ | 26.03.31 |
| 旭川市廃棄物減量等推進審議会委員               | 25.06.01 | ～ | 27.05.31 |
| 旭川市立学校学校評議員                    | 25.06.05 | ～ | 26.03.31 |
| 旭川市民文化会館運営審議会委員                | 25.07.01 | ～ | 27.06.30 |
| 留萌教育局特別支援連携協議会委員及び専門家チーム委員     | 25.07.24 | ～ | 26.03.31 |
| 北海道上川総合振興局道営農業農村整備事業等環境情報協議会委員 | 25.07.29 | ～ | 26.03.31 |
| 旭川市井上靖記念館運営協議会委員               | 25.08.01 |   | 27.07.31 |
| 家庭裁判所委員会委員                     | 25.08.01 | ～ | 27.07.31 |
| 上川管内特別支援連携協議会委員                | 25.08.13 | ～ | 26.03.31 |
| 上川管内地域人材育成会議委員                 | 25.08.26 | ～ | 26.03.31 |
| 旭川市国民健康保険運営協議会委員               | 25.08.31 | ～ | 27.08.30 |
| 旭川市音楽堂等運営協議会委員                 | 25.09.01 | ～ | 27.08.31 |
| 旭川市情報公開・個人情報保護委員会委員            | 25.10.01 | ～ | 27.09.30 |
| 旭川市公民館運営協議会委員                  | 25.11.01 | ～ | 27.10.31 |
| 旭川市ごみ減量等推進優良事業所認定審査会委員         | 25.11.12 | ～ | 25.11.12 |
| 旭川市公園指定管理者選定委員会委員              | 25.11.21 | ～ | 26.03.31 |
| 北海道いじめ問題等解決支援外部専門家チーム員         | 25.11.24 | ～ | 26.03.31 |
| 旭川市図書館協議会委員                    | 25.12.01 | ～ | 27.11.30 |
| 旭川市工芸センター運営委員会委員               | 25.12.01 | ～ | 27.11.30 |

| 委嘱された審議会・委員会等     | 任 期      |   |          |
|-------------------|----------|---|----------|
| 旭川市スポーツ賞選考委員会     | 25.12.12 | ～ | 25.12.12 |
| 評価手法検討会議委員        | 25.12.14 | ～ | 26.03.31 |
| 旭川市住居表示等審議会委員     | 26.01.26 | ～ | 28.01.25 |
| 旭川市総合計画策定に係る懇話会委員 | 26.02.12 | ～ | 28.02.19 |
| 旭川市市民参加推進会議委員     | 26.02.27 | ～ | 28.02.26 |
| 旭川市消費生活会議委員       | 26.03.02 | ～ | 28.03.01 |

## 平成25年度 講演会の講師・助言者等派遣一覧

25.4.1～26.3.31

| 依頼された講演会の講師等                     | 開催日      | 受講対象者    | 備 考  |
|----------------------------------|----------|----------|------|
| 旭川市教育委員会「第3回研修事業」講師              | 25.05.29 | 教育関係者    |      |
| 「黒松内町教職員スキルアップ研修会」講師             | 25.06.05 | 町内教職員    |      |
| 「地域連携研修における公開研修会」講師              | 25.06.05 | 教職員      |      |
| 「北海道鷹栖養護学校校内研修会」講師               | 25.06.12 | 同校教職員    |      |
|                                  | 25.10.16 |          |      |
|                                  | 26.02.05 |          |      |
| 「ジュニア・イングリッシュキャンプ」講師             | 25.06.15 | 保護者      |      |
| 10年経験者研修「共通研修」講師                 | 25.06.24 | 教育関係者    |      |
|                                  | 25.07.04 |          |      |
| 「雌阿寒岳火山噴火総合防災訓練等」実施講師            | 25.06.28 | 各機関職員    |      |
| 北海道旭川西高等学校「環境講座」講師               | 25.07.11 | 高校生      | 2名派遣 |
|                                  | 25.11.30 |          |      |
| 「生徒指導研究協議会」講師                    | 25.07.17 | 教職員      |      |
| 「上川圏域子ども発達支援研修」講師                | 25.07.23 | 一般市民     |      |
| 「むかわ町教職員研修会」講師                   | 25.07.26 | 教職員      |      |
| 江別市私立幼稚園連合会「研修会」講師               | 25.07.26 | 市内教員     |      |
| 「第63回全道造形教育研究大会石狩大会」実践助言者        | 25.07.29 | 教職員      |      |
| 10年経験者研修「教科指導等研修」講師              | 25.07.29 | 管内教職員    |      |
|                                  | 26.01.07 |          |      |
| 「北海道雨竜高等養護学校地域研修会」講師             | 25.07.30 | 同校教職員    |      |
| 「オホーツク子どもの発達サポート教育研究会第12回研究大会」講師 | 25.08.05 | 教職員      |      |
| 「北海道高等学校教頭・副校長会道北支部第2回研究協議会」講師   | 25.08.06 | 道内教頭・副校長 |      |
| 「思春期保健ネットワーク推進会議」講師              | 25.08.07 | 町内支援関係者  |      |
| 旭川市教育委員会「第8回研修事業」講師              | 25.08.08 | 市内教職員    |      |
| 「小学校外国語活動基礎研修講座」講師               | 25.08.08 | 管内教職員    |      |
| 「北海道特別支援教育学会道北支部研修会」コーディネーター     | 25.08.10 | 教職員      | 3名派遣 |
| 「上川教育研究会中部地区研修会」講師               | 25.08.21 | 教職員      |      |
| 旭川市立永山南小学校「校内特別支援教育研修会」講師        | 25.08.26 | 校内教職員    |      |
| 「北海道立教育研究所教職員研修講座」講師             | 25.08.27 | 教職員      |      |
| 旭川市教育委員会「生徒指導研究協議会」講師            | 25.08.27 | 市内教職員他   |      |
| 「特別支援教育充実セミナー」講師                 | 25.08.28 | 管内教職員    |      |

| 依頼された講演会の講師等                              | 開催日                   | 受講対象者          | 備考   |
|---|-----------------------|----------------|------|
| 上川管内学力向上トリプル UP！事業「第1回上川管内算数ネットワークセミナー」講師 | 25.08.29              | 管内算数ミドルリーダー    |      |
| 「上川管内北部高等学校養護教諭研究協議会」講師                   | 25.09.12              | 上川管内北部高等学校養護教諭 |      |
| 「愛別町特別支援教育連絡協議会研修会」講師                     | 25.09.12              | 町内教職員          |      |
| 「北海道高等学校学力向上推進事業」教材等作成会議講師                | 25.09.12              | 道内教職員          |      |
| 旭川市立東五条小学校「実践研究発表会」全体指導者                  | 25.09.18              | 市内教職員          |      |
| 北海道自閉症協会オホーツク分会「講演会及び相談会」講師               | 25.09.28<br>25.09.29  | 一般市民           |      |
| 旭川市体育協会「第2期スポーツ教室」講師                      | 25.10.01-<br>25.12.03 | 一般市民           |      |
| 「上川管内教育研究会－北部地区研究会」講師・助言者                 | 25.10.01              | 管内教職員          | 4名派遣 |
| 「上川管内教育研究会－中部地区研究会」講師・助言者                 | 25.10.02              | 管内教職員          | 6名派遣 |
| 「北海道高等学校英語弁論大会道北地区大会」審査員                  | 25.10.07              | 高校生            |      |
| 「上川管内教育研究会－南部地区研究会」講師・助言者                 | 25.10.08              | 管内教職員          | 5名派遣 |
| 上川管内学力向上トリプル UP！事業「第2回上川管内算数ネットワークセミナー」講師 | 25.10.09              | 管内算数ミドルリーダー    |      |
| 研修講座「算数・数学科教育」講演講師                        | 25.10.17              | 小中教諭・教員志望者     |      |
| 「上士幌町教育講演会」講師                             | 25.10.18              | 町内教職員他         |      |
| 「旭川市教育研究会研究授業」助言者                         | 25.10.22              | 市内教職員          |      |
| 旭川市「特別支援教育」講演会講師                          | 25.10.26              | 一般市民           |      |
| 「上川管内高等学校国語科研究会」講師                        | 25.10.28              | 管内高等学校国語科教諭    |      |
| 「校内・地域教職員研修促進費に係る地域連携研修」講師                | 25.10.30<br>25.11.27  | 町内教職員          | 2名派遣 |
| 「北海道学校体育研究大会富良野大会」助言者                     | 25.11.08              | 富良野教職員         | 2名派遣 |
| スポーツリーダー養成講習会兼スポーツ少年団認定員養成講習会             | 25.11.16<br>25.11.17  | 指導者            | 3名派遣 |
| 遠軽ブロック「地域連携研修」講師                          | 25.11.22              | 教職員            |      |
| 上川管内学力向上トリプル UP！事業「第3回上川管内算数ネットワークセミナー」講師 | 25.12.03              | 管内算数ミドルリーダー    |      |
| 北海道旭川西高等学校「科学英語講座」講師                      | 25.12.09              | 高校生            |      |

| 依頼された講演会の講師等                              | 開催日                  | 受講対象者           | 備考   |
|---|----------------------|-----------------|------|
| 羅臼町立羅臼小学校「校内研修」講師                         | 25.12.10<br>26.02.21 | 校内教職員           |      |
| 北海道学力向上トリプル UP！事業「言語活動の充実に向けた授業づくり研修会」講師  | 25.12.10             | 管内教職員           |      |
| 北海道障がい者虐待防止・権利擁護研修「施設従事者等研修」講師            | 25.12.12             | 道内福祉事業所<br>管理者他 |      |
| 上川管内言語障害教育研究会「富良野地区研修会」講師                 | 25.12.18             | 教職員             |      |
| 「北海道鷹栖養護学校冬季研修会」講師                        | 26.01.08             | 校内教職員           |      |
| 上川管内学力向上トリプル UP！事業「上川管内国語パワーUP！プロジェクト」講師  | 26.01.09             | 管内教職員           |      |
| 上川管内学力向上トリプル UP！事業「言語活動の充実に向けた授業づくり研修会」講師 | 26.01.09             | 管内教職員           |      |
| 「上川学校教育相談研究会冬季研修会」講師                      | 26.01.15             | 管内教職員           |      |
| 「留萌保健所母子保健研修会」講師・助言者                      | 26.02.10             | 市町村保健師他         |      |
| 「上川管内地域連携研修会」講師                           | 26.02.10<br>26.02.13 | 管内教職員           | 2名派遣 |
| 「管内国語ネットワークセミナー」講師                        | 26.02.18             | 管内教職員           |      |
| 北海道教育委員会「特別支援教育研修会」講師                     | 26.02.20             | 教職員             |      |
| 千歳市教育委員会「地域連携研修会」講師                       | 26.02.24             | 市内教職員           |      |
| 宗谷管内「第3回算数ネットワークセミナー」講師                   | 26.02.26             | 管内教員他           |      |
| 「保体(小)・保体(中)部会 実技・理論研修会」講師                | 26.02.28             | 管内教職員           |      |
| 「江別市地域療育推進協議会研修会」講師                       | 26.03.14             | 市内教職員           |      |
| 「合唱団えぼあ」指導に係る講師                           | 26.03.15             | 合唱団員            |      |

編集：北海道教育大学旭川校  
地域教育連携・貢献推進委員会